届け、感謝の思い

フィナーレは、出演者、スタッフ全員で夢フェスタのテーマソング「風のように」を歌い、感謝の気持ちを客席に伝えました。ギターを弾いて歌っているのが、作詞・作曲した清水バンドの清水明さん

愛らしい子どもたちの演技役をしっかりと演じました

▲舞台が終わり、ホールで観客を見送る出演者ら。観客と出演者の距離の近さを感じます。夢が一つ実を結び、また続いていきます

市民手づくりの演劇は15回という経験を重ね、見る者に安心と感動を与えます

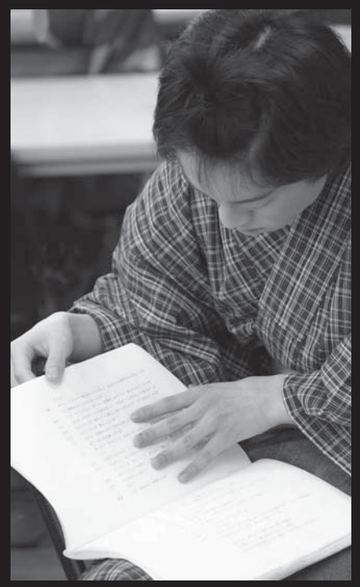
夢フェスタ水の里

登米市民劇場「夢フェスタ水の里」。毎回、募集に応じた100人を超えるボランティアがキャストから裏方までこなす市民手づくりの創作劇。合併前の旧各町に残る民話や実話、逸話などを掘り起こし、新しい視点を加えて発信してきた。

平成11年3月に旧迫町の鹿ケ城を題材にした「さいかちの木は風にゆれて」を初上演した。夢フェスタは登米市の旧9町の文化や歴史を題材に公演を一巡。その後、新たな取り組みを模索しながら15回目を迎えた。「市民が主役」をモットーに、登米祝祭劇場で繰り広げられる最大級の芸術文化イベント。

◀開場前、来場者に配るパンフレットを整理するボランティアスタッフ。市民劇場という一つの「夢」に向かって多くの市民が支えています

▶本番直前のリハーサルで最終確認。演技の完成度を高めます



▲楽屋で台本を丁寧に読み返す出演者。緊張感が伝わってきます